

ISSN 1342-789X

駒澤短期大學
佛 教 論 集

第十二號
(最終號)

2006年10月

駒澤短期大學

佛 教 科

二〇〇六年十月

駒澤短期大學佛教論集

第十二號

駒澤短期大學

佛
教
科

JOURNAL
OF
BUDDHISM

No.12 October 2006
(The Last Issue)

Edited by
DEPARTMENT OF BUDDHISM
KOMAZAWA JUNIOR COLLEGE
TOKYO

JOURNAL
OF
BUDDHISM

No.12 October 2006
(The Last Issue)

Edited by
DEPARTMENT OF BUDDHISM
KOMAZAWA JUNIOR COLLEGE
TOKYO

執筆者紹介（掲載順）

伊藤 秀憲 (愛知学院大学教授)
 袴谷 憲昭 (仏教科教授)
 岡本 一平 (仏教科非常勤講師)
 須山 長治 (仏教科非常勤講師)
 奥野 光賢 (仏教科教授)
 下室 覚道 (仏教科非常勤講師)
 角田 泰隆 (仏教科教授)
 松田 和信 (佛教大学教授)
 池田 道浩 (仏教科非常勤講師)
 石井 公成 (仏教科教授)

編集後記

『駒澤短期大学仏教論集』第十二号をお届けいたします。駒澤短期大学は平成十八年度より新規の学生募集を停止し、在学生の卒業をもって廃止されることが決まりました。これに伴い残念ながら本論集も今号が最終号ということになりました。第十二号をもって最終号となることに言いようのない寂しさや感慨を覚えます。特に意図したわけではありませんが、巻頭には伊藤秀憲先生による昨年度の仏教科公開講演会『「正法眼蔵」はいかに編輯されたか』を掲載することができました。第十二号と十二巻本『正法眼蔵』、これも何かの因縁なのかもしれません。ご多忙の中、本論集のた

めにご尽力いただいた伊藤先生には厚く御礼申し上げます。

佛敎大学の松田和信先生には、袴谷憲昭先生のご著書『唯識思想論考』の書評をお寄せいただきました。これは本論集を最終号を迎えるということで、昨年中に木村誠司先生が特に松田先生にお願ひして実現したものです。約束に違わず原稿をご送付下された松田先生には心よりの御礼を申し上げます。

短大仏教科は平成七年に学科として独立し、本論集も同年に刊行が開始されました。第一号副刊時の意気込みとやや高揚した気分を想うといささか感傷的にもなっています。しかし、冷静になって振り返ってみると、もうすでにその頃から短大の将来については危惧の念が表明されており、種々の議論が開始されてきました。そして、結局のところ、短大問題は上記のような結論となりました。いわゆる少子化とそれに伴う十八歳人口の減少により、まもなく大学は「全入の時代」に突入するといわれています。大学のパブルが終焉し、夢から覚めてみたらかかる事態になっていたといっている言い過ぎでしょうか。まさにいま短大のみならず大学全体が正念場にさしかかったといえるのではないでしょうか。

学科独立以来、本論集を刊行するために専任教員五名の他、非常勤講師の諸先生にも多くのご協力をいただきました。ここ改めて感謝申し上げます。少ない人数で毎

年、論集を刊行することはある意味では大変でもありましたが、またある意味ではそれが研究の励みでもありました。その意味でも本論集がなくなることは残念の極みですが、本論集を土台に次の舞台に飛躍したいと思います。

短大仏教科を誰よりも愛し、誰よりも大切にされてきた前主任の木村誠司先生が昨年末、病に倒れられ現在もなお入院中です。短大問題で過重なご負担をおかけしていたのではないかと心が痛みます。木村先生の一日も早いご快癒を切にお祈りします。

終わりに駒澤短期大学仏教科の卒業生、在学生の皆さんの益々の発展を祈念し、本論集最後の「編集後記」とします。

(編集係 奥野光賢)

駒澤短期大学仏教科
仏教論集 第十二号

二 六年十月三十一日 発行

発行人 駒澤短期大学仏教科研究室

代表 奥野 光賢

発行所 駒澤短期大学仏教科研究室

東京都世田谷区駒沢一丁目

印刷所 ㈱東京技術協会

東京都港区三田四八四一